

# 水性コンポアクリル

## 特 長

水性コンポアクリルは、水性反応硬化形のアクリル樹脂を結合材として用いた塗料です。架橋構造による強靱な塗膜は、耐候性を始め、耐水・耐アルカリ性に優れ、建物を長期に亘って保護します。

- 緻密な塗膜表面は、塵やほこりを寄せつけず、長期に亘り美しい外観を維持できます。
- 防かび・防藻性に優れています。
- 隠べいがよく、塗り継ぎもむらなく仕上がります。また、一液タイプのため混合不良がなく、作業性に優れています。
- 水性のため、火災や有機溶剤中毒の心配がなく、屋内外で安心して使用できます。

## 用 途

- ① 各種複層仕上げの上塗り
- ② 各種建材の表面仕上げ
- ③ 各種改装工事

## 荷 姿

水性コンポアクリル 16kg石油缶、4kg缶  
(艶有り、半艶、3分艶、艶消し) (標準塗坪：53~64㎡/16kg缶、13~16㎡/4kg缶)

## 危険情報と安全対策

ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。また、MSDS（製品安全データシート）もご参照ください。  
ご使用の際には、安全管理に注意して作業を行ってください。

## 標準施工仕様

(20℃、65%RH)

材 料	調合 (重量比)	所要量 <sup>*1</sup> (kg/㎡)	塗回数	間隔時間(hr)			備 考
				工程内	工程間	最終養生	
<sup>*2</sup> 水性コンポアクリル	100	0.25~ 0.30	2	2以上	—	24以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量：600~1000ml/分 パターン幅：25~30cm
<sup>*3,4</sup> 清 水	0~20	—					

※1. 「所要量」はロスを含みます。被塗装面に付着させる塗料の「標準塗付け量（ロスを含まない）」は、水性コンポアクリルで「0.22~0.24kg/㎡」となります。各材料の使用数量などを算出する際には、「所要量」を基準としてください。

※2. 複層仕上げの上塗りに用いる場合は所要量が0.30~0.35kg/㎡になります。なお、この場合の標準塗付け量は0.26~0.28kg/㎡となります。

※3. 清水の希釈率は、スプレー塗りで「10~20」、ローラー・刷毛塗りで「0~10」となります。

※4. 希釈率は、色相及び施工時の気温により変化することがあります。ご了承ください。

※5. 下地の種類により、適切な下塗材の選定が必要となります。特に押出成形セメント板・GRC板・PC部材などには、下塗材として弱溶剤形の★マイルドシーラーEPO（14kgセット）、または溶剤形の★ミラクシーラーEPO（15kgセット）をご使用ください。

注）溶剤形の製品（★印）については、「危険情報と安全対策」をよくお読みください。

## 性能試験成績表

試験項目	結 果	規定または試験方法
隠ぺい率%(白及び淡彩)	97	95以上
鏡 面 光 沢 度	80	70以上
密 着 性	100/100	スレート板上での基盤目試験結果
耐 水 性	合 格	96時間浸したとき光沢保持率が80%以上で、塗面に異常がないものとする。
耐 アルカリ性	合 格	水酸化カルシウム飽和溶液に7日間浸したとき光沢保持率が65%以上で、塗面に異常がないものとする。
耐 塩 水 性	異常なし	3%塩化ナトリウム水溶液168時間浸漬
耐 洗 浄 性	合 格	JIS K 5660 6.11 に準拠。1000回の洗浄に耐えるものとする。
耐湿潤冷熱繰返し性	合 格	JIS K 5600-7-4 に準拠 光沢保持率が80%以上で、湿潤冷熱繰返しに耐えるものとする。
促 進 耐 候 性	1200時間合格 耐候形2種相当	JIS A 6909 7.19 促進耐候性試験B法に準拠。
屋外曝露耐候性	合 格	JIS K 5600-7-6 に準拠 12ヶ月の試験で、白亜化の等級は2以下で、割れ・はがれ・膨れ及び穴がなく、色とつやの変化の程度が見本品に比べて大きくないものとする。
安 全 性	消防法分類	非危険物
	有機物区分	適用外

この試験結果は、水性コンポアクリル（艶有り）のものです。